

# ベトナム・ドゥオンラム村 - 伝統と近代の交差点

Duong Lam Ancient village in Vietnam - Intersection of Tradition and Modernity

グエン・ティ・ラン・アイン  
野上 建紀

NGUYEN THI LAN ANH  
NOGAMI Takenori

# ベトナム・ドゥオンラム村 - 伝統と近代の交差点

ハノイ大学 グエン・ティ・ラン・アイン

長崎大学 野上 建紀

Duong Lam Ancient village in Vietnam - Intersection of Tradition and Modernity

NGUYEN THI LAN ANH (Hanoi University)

NOGAMI Takenori (Nagasaki University)

## Abstract

Duong Lam Ancient village, is a remarkable testament to Vietnam's historical and cultural legacy. Renowned for its preservation of ancient architecture, this village is a living museum of Vietnamese rural life. The traditional laterite brick houses, some centuries old, stand as enduring symbols of Vietnam's architectural heritage. These houses, with their tiled roofs and thick walls, are unique to the region and reflect the ingenuity and resilience of local craftsmanship. The village's historical significance is further underscored by its association with two of Vietnam's most revered kings, Phung Hung and Ngo Quyen, both of whom are believed to have been born there. This connection imbues Duong Lam with a sense of national pride and importance. The ancient banyan trees, wells, and communal houses within the village serve as communal gathering spots, preserving traditional social structures and community rituals. What truly sets Duong Lam apart is its tangible connection to the past. The streets and buildings are not just relics; they are a living, breathing part of Vietnam's cultural fabric. Traditional customs and practices are still observed by the villagers, offering a rare, unbroken lineage to the past. The maintenance of these traditions amidst modern pressures is a testament to the village's resilience and commitment to preserving its unique identity. This village is more than just a tourist destination; it's a vibrant cultural repository, safeguarding practices, customs, and architectural styles that are integral to understanding Vietnam's rich historical tapestry. The enduring legacy of Duong Lam lies in its ability to maintain its historical integrity while continuing to be a living, evolving community.

**Keywords:** Duong Lam Village, Vietnam's historical, Tradition and Modernity

## はじめに

ドゥオンラム村 (Làng cổ Đường Lâm) は、ベトナムの古い伝統的な農村文化や町並みと歴史的建造物が保存されており、村全体が古代の村としてベトナムで初めて国家歴史文化遺跡として認定された村である。ハノイ中心部から約50kmの場所にあるドゥオンラム村は、5つの集落で構成されており、現在、約1000棟の伝統的な古民家が保存されている。ドゥオンラムの土地は「古代村」と呼ばれ、紅河川の水運の利用により数千年前の古代からここに人が住んでいたと言われている。美しい自然の景観と豊かな文化史を持つ古代のベトナムの村と言える。また、ドゥオンラム村は、ベトナムの風習、儀式、そして伝統的な祭りがよく残っている場所である。この村は有名な二人の王、フン・フン王とゴ・クエン王の故郷でもあり、村の歴史のおよび文化的価値を高めている。ドゥオンラム村には彼らを祀る寺院、祠、そして、歴史的な廟などが数多くある。これらは民族の英雄を崇拝する場所となっている。そして、そのため、ドゥオンラム古村は、重要な文化遺産であるだけでなく、昔のベトナムの魂とアイデンティティが尊重されている魅力的な観光地でもある。本稿ではベトナムの重要な霊地のドゥオンラム村の特色についてまとめていきたい。

### 1. ドゥオンラム村の概要

「もし、ホイアン<sup>(注1)</sup>の人々が古い町並みに誇りを持っているなら、ハノイの人々が36の通りに誇りを持っているように、ドゥオンラムの人々も蜂の巣状の岩でできた家々とドゥオンラムの古い村に同じくらいの誇りを持つだろう」という話がある。ドゥオンラム村は、ベトナム北部の紅河川地帯に位置し、約1200年の歴史を持つ農業と工業の中心地として知られている。この村は5つの集落から成り立っており、それらはモンフ (Mông Phụ)、ドンサン (Đông Sàng)、ドアイギャップ (Đoài Giáp)、カムティン (Cam Thịnh)、カムラム (Cam Lâm) であり、古くから「地霊人傑」の地と言われている。また、2005年にはベトナムで初めて国家文化歴史遺産に指定された。これは村の保存と修復プログラムの始まりを告げるものであり、2014年には UNESCO アジア太平洋文化遺産保全賞の功績賞を受賞した。ドゥオンラム村の保存活動は、文化遺産を保護するだけでなく、観光客を惹きつけ、地元住民に収入の機会をもたらしている。

中世には、ドゥオンラム村はベトナムの王朝が支配する中心地から離れた場所に位置し

ていたが、その地理的な位置によって交易や文化の交流の場として存在した。独特の環境に適応し、独自の建築様式や社会組織を発展させることにより、他の地域と区別されるようになった。家族単位で構築される共同体、祖先崇拜、そして地域に根ざした精神的価値観が、その文化を形作る重要な要素となった。

19世紀にフランス植民地時代を迎えると、ドゥオンラム村は多くの変化に直面した。この時期、ベトナムの多くの地域と同様に、外国の影響を受け、社会経済的な構造が変化し始めた。しかしながら、ドゥオンラム村の住民はその伝統と文化を守り続けた。20世紀には、ベトナム戦争とその社会・政治的影響が村にも及んだ。農業中心の生活は困難を極め、多くの村民が戦争の影響を受けた。しかし、この困難な時代もドゥオンラムの強固なコミュニティ精神と結束を強める結果となった。また、ベトナム戦争後、国は再建を始め、ドゥオンラム村もまたその過程で変化した。経済の自由化、ドイモイ<sup>(注2)</sup> (Đổi Mới・刷新) 改革により、村は新しい社会経済的動きの一翼を担うようになった。伝統的な生活様式と近代化の要素が交差する中、村は観光業の発展を目の当たりにした。ドゥオンラム村は現代において、その歴史的、文化的遺産を保護することの重要性が認識されている。ベトナム政府と国際機関は、村の伝統的な建物、習慣、生活様式を保存しつつ、持続可能な観光と地域経済の発展を推進している。

ドゥオンラム村では、農業と観光の組み合わせが特徴的である。過去には宿泊施設が少なかったため、日帰り旅行が主流であったが、最近では多くの地元住民がホームステイを提供するようになった。観光客は、農作業に参加したり、村の職人による伝統的な音楽公演を聴いたりすることができる。このような観光産業は、村の財政安定に貢献し、ベトナムの独特な文化としての村を保存するのに役立っている。また、ドゥオンラム村の建築物の多くは、地域に豊富にあるラテライトと泥で作られている。ラテライトは家の壁、門、井戸、寺院の壁などに使用され、泥は池から採取されている。これらの建材は、村の歴史のおよび観光的価値だけでなく、古代農業における居住コミュニティの研究にも重要な役割を果たしている。

## 2. ドゥオンラム村の二人の王の地霊

1971年の発掘調査で、考古学者たちはフン・ヴォン (Hùng Vương)<sup>(注3)</sup> 代の石器時代の遺跡を発見した。専門家によると、ドゥオンラムについて美しい景観と豊かな歴史文化

を持つベトナムの古い村と評価している。ドゥオンラムのように重要な国家的イベントに関連しながら、数千年にわたり発展した紅川デルタ文明の代表的な文化建築の遺跡をすべて備えた古代ベトナムの村は稀である。

ドゥオンラム村は何千年もの歴史を持つ国の建設と防衛と共にあった「貴族の家系」の故郷とも称されている。ドゥオンラムは「霊地で有能な人」の土地としても知られ、唯一「一つの村に二人の王」が生まれた場所であり、ここは歴史的、文化的な儒学の遺跡とも深く結びついている。ドゥオンラム村はベトナムの歴史上の重要人物の故郷として知られている。面積は大きくはないが、この霊的な地は8世紀のフン・フン（Phùng Hưng・馮興／?-791年）と9世紀のゴ・クエン（Ngô Quyền・呉権／898年-944年）、16世紀の使節ジャン・ヴァン・ミン（Giang Văn Minh・江文明／1573年-1639年）、17世紀の女王ミアのグエン・ティン・ゴック・ドン（Nguyễn Thị Ngọc Dong）、19-20世紀の副幹事キウ・オアン・マウ（Kiều Oánh Mậu）、19-20世紀の謙使大臣及び副首相ファン・ケ・トアイ（Phan Kế Toại・ベトナム民主共和国副首相4期）、20世紀のハ・ケ・タン（Hà Kế Tân・水利省大臣1964-1973）など、国の名誉を高める多くの偉人、天才、学者を輩出した。また、多くの高潔な官僚や賢明な教育者が他の分野で功績を残している。本稿ではベトナム歴史の中でフン・フン王とゴ・クエン王という二人の輝かしい皇帝を紹介したい。

### フン・フン王（馮興・?-791）

フン・フン王は、ベトナムの歴史において重要な人物の一つで、ベトナムにおける第三次北属期（602年-905年）に唐の支配に対する蜂起の首領であり、北方の人々を追い払い、一時的に支配権を握った。フン・フン王はベトナムの独立を追求し、その達成に貢献したことから、ベトナムの英雄として尊敬されている。

フン・フン王は、9世紀にベトナムの地域で権力を持っていた部族の一つであるアンナム（安南）部族の指導者であった。フン・フン王は、当時中国の唐朝の支配下にあったベトナムから独立を宣言し、ベトナムの独立を目指して戦ったことで知られている（Phung Van Khai 2015）。

フン・フン王の最も有名な業績の一つは、782年に唐朝の軍との戦闘で勝利し、ベトナムの独立を確立したことである。この勝利により、ベトナムは一時的に独立を取り戻し、フン・フン王はその独立を守るために努力した。しかし、後に唐朝の侵略が再び起こり、ベトナムは再び中国の支配下に入った。フン・フン王の死後も、王の精神はベトナムの独

立の象徴として尊重されている。フン・フン王の抵抗の努力は、後のベトナムの歴史において独立を求める運動に影響を与え、フン・フン王はベトナムの国民的英雄として称えられている。

### ゴ・クエン（呉権／898年 - 944年）

ゴ・クエン王は、ベトナムの歴史で重要な役割を果たした武将及び国王であり、ベトナムの独立と統一を実現したことで知られている。ゴ・クエンはベトナムの歴史において乾隆朝と呼ばれる時期に活動した。この時期、ベトナムは南北に分かれ、北部は中国の支配下にあった。ゴ・クエンは南部のヴィエト族の指導者として、ベトナムの独立を目指し、中国の支配に対抗した。ゴ・クエンはベトナムの歴史において英雄的な存在と見なされ、特に10世紀の白藤江の戦いは有名な業績である。白藤江の戦いは938年に白藤江川の地域（現在のクアンニン省のハロン湾近く）で起き、ベトナム軍は中国の侵略軍に対して白藤江川（Bạch Đằng）で勝利を収めたベトナムの歴史における重要な出来事である。ベトナムが10世紀初頭の丁王朝（Đinh・ディン／968年 - 980年）<sup>（注4）</sup>と黎王朝<sup>（注5）</sup>（Lê・レー／1428年 - 1789年）（北南朝）の支配から独立を取り戻す闘いの中で重要な出来事とされている（Dang Khoa 2014）。この戦闘では、ゴ・クエン王が重要な指導者として活躍し、ベトナムの抵抗運動を率いた。

戦いでは、ゴ・クエン王は巧妙な戦術を採用した。彼は敵の軍事船団が進入する際に、木製の柱と杭を設置して敵を妨害した。敵が川に進入し、彼らの船が足止めされると、ゴ・クエンは敵に対して壊滅的な攻撃を仕掛けた。この戦闘の結果、ベトナムは勝利を収め、長期間にわたるディン王朝とレー王朝の支配から独立を取り戻した。ゴ・クエンは知恵と決意を持つ優れた指導者として認識され、ベトナムの独立を守るために貢献した。白藤江の戦いの勝利によって、ゴ・クエンはダイ・ヴィエット独立国（Đại Việt）の初代皇帝となり、その後、ダイ・ヴィエットの統一と独立を追求した（Ngo Si Lien 2011）。ゴ・クエンの業績はベトナムの歴史において非常に重要であり、国民的英雄として尊敬されている。ゴ・クエンは、ベトナムの独立と統一を実現した英雄として、今日まで称賛され続けている。白藤江の戦いは、ベトナムの歴史における象徴的な出来事であり、ベトナムの歴史と文化において広く称賛されている。

### 3. ドゥオンラム村の文化遺産の建築

ドゥオンラム村には、約1000軒の古い家があり、それらはドンサン、モンフー、カムティンの各集落に位置している。多くの古家があり、1649年、1703年、1850年に建てられたものがあり、ドアイ地方<sup>(注6)</sup>(Xứ Đòai)の伝統的な材料である蜂の巣状の岩、竹、シーシャムウッド、ニューサ、焼き土のレンガ、瓦、踏み固めた土、籾殻、おがくずなどを使用して建設されている。空間の構成、敷地、ドゥオンラムの伝統的な住宅の主要な要素には、門、塀、庭、庭園、主屋、補助的な家、キッチン、家畜や家禽を飼うための小屋が含まれている。広い家には風除け、井戸があり、一部の家族には池もある。

ドゥオンラムの建物の敷地内の建築レイアウトは、「大工の定規」スタイルに従って母屋と付属屋が直角に配置されることが一般的である。ドゥオンラムの古家は、夏は涼しく冬は暖かい。南または南東に面していることが多い。

ドゥオンラムの古家は都市化のライフスタイルの影響をあまり受けてない。独特の空間の特徴を持つ家々に、旅行者はすぐに印象を受ける。村の道を歩き、小道や路地に入ると、蜂の巣状の岩で作られた壁や、漆喰で塗られた壁、レンガの壁が、ドアイ地方の山間部に位置する古い村の特徴的な美しさを作り出しており、他のどこにも見られないものである。100年から200年の歴史を持つ数百の古い家々は、建築構造、フレームワーク、ドア、建築材料、彫刻された模様などに関する研究の価値がある。

ドゥオンラムには、その古風な特徴を今でも保持している有名な古家はいくつかある。その一つがハー・グエン・フエン氏(Hà Nguyễn Huyền)の家で(写真2)、この家は第一種の伝統民家として分類されている文化財である。この家は訪れる人々に強い印象を与えることで知られており、その印象のほとんどは緑豊かな植物によるものである。豆醬の製造業を営むフエン氏は、広い庭を加工場所として利用している。濃い茶色の豆醬が瓦の庭に整然と並べられている。漢詩に情熱を注ぐ人物であるフエン氏は、目を引く字体で書かれた対聯詩で家を飾っている。たばこパイプ、磁器の茶器、オイルランプなどの小さな家庭用品を見たら、繊細で古風な性格を持っている家の主の性格が分かる。

グエン・ヴァン・フン(Nguyễn Văn Hùng)氏の家(写真3)も第一種の伝統民家として分類されている。1649年に建てられ、主にジャックフルーツの木と黒檀の木で構築されているが、後黎朝(Hậu Lê, 428-1789)<sup>(注7)</sup>の時代からの精巧な彫刻が施された扉は今もそのままの状態に残っている。土石、稲の籾殻、泥を接着材として使用した古いスタイ

ルで建てられた門と、木綿の木の陰に覆われた入り口に驚かされる。5間の主屋と2つの小屋で構成され、中央の3間は先祖への祭祀の場所で、客をもてなすための長椅子のセットも備わっている。両側の2間は寝室として使用されている。

また、ズオン・ラン氏 (Dương Lan) の古家 (写真4) は、1780年に建てられている。入り口は非常に高く設計されており、家に入るとき、身をかがめなければならない。家の中には、受験に成功して官職に就いた人々の家にしかない牛の角の形をした装飾品がある。さらに、開放的な空間と自然光を最大限に活用する能力も、ドゥオンラムの古家の強みの一つである。

前にも述べたように、中世にはドゥオンラム村はベトナムの王朝が支配する中心地からは離れた場所に位置していたため、その地理的な位置は、交易や文化の交流の場として機能した。村は、その独特の環境に適応し、独自の建築様式や社会組織を発展させることにより、他の地域と区別されるようになった。家族単位で構築される共同体、祖先崇拜、そして地域に根ざした精神的価値観が、その文化を形作る重要な要素となった。

ドゥオンラム村の集落の中ではモンフ集落が最も広い村である。モンフ集落では主要道路に建つ村の門と寺院に最初に注目される。ベトナムのどの農村の住民にとって、モンフ集落の門 (写真5) と寺院は村の繁栄と富の象徴である2つの建築物であり、ドゥオンラムの住民にとっても、これらの二つの建造物は非常に入念で華麗に建てられた。村の門の四本の柱は非常に慎重に選ばれ、4つの貴重な木材、チーク、チェリー、シダーウッド、メイプルで作られた。これらの四つの柱が現在までしっかり立っているのは、クアン・ニン県 (Quảng Ninh) ドン・チエ省 (Đông Triệu) の石から取られた緑色の丸い石の断片のおかげである。壁部分は蜜蜂の巣のような石で作られ、村の門はチェリーの木で作られている。

モンフ集落の寺院は村の中心に建てられ、非常に特別な特徴がある。それは、二つの長方形が宗教施設のように建てられている点である。これはベトナムのキン族とムオン族の建築様式であり、数百年前からのキン族とムオン族の文化の調和を示す証拠である。寺院の柱は主にチーク材、シダーウッド材で作られ、大人の腕の周囲を抱えるほどの大きさであり、時間と共に黒光りする。

### 伝統的な生活の空間

村の家々はすべて内自・外客の様式で構築される。「内自」、「外客」様式の構造は具体的には、この構造は次の2つの主要な部分で構成されている。

・「内自」：これは家の内部であり、通常は家族と日常の活動のために使用される。この部分には寝室、リビング、キッチン、家族のための特定のスペースなどが含まれる。

・「外客」：これは家の外部であり、通常は訪問客を受け入れるために使用される。これには前庭や訪問者用の特別なスペースが含まれる。

この構造は家庭のプライバシーと社会的な交流の空間を明確に区別し、伝統的な家庭生活と社会的なコミュニケーションを調和させることを可能にしている。また、家の庭は道路よりも低くなっている。理由は雨の日には、外から水が庭に流れ込み（水を集めて財を生む）、その後路地の排水溝へと流れていく。

村の住民によると、もう一つの特徴は、盗みや強盗を防ぐために、村の中のすべての路地が通り抜けができない行き止まりとなっている。その一方で、各家には秘密の扉と、村に何かあったときに、村の若い男たちがすぐに集まることができるように、神社の庭に続く抜け道がある。

#### モンプー公会堂（写真6）

伝説によると、モンプー公会堂は竜の頭の位置に建てられており、村の井戸はその目にあたるという。公会堂の庭は周囲よりも低くつくられており、現代建築の常識に反しているように見えるが、これは古代の人々の意図的なデザインである。雨が降ると、水は低い場所に流れるため、水は三方向から急流となって流れ込んでくることになる。それは豊かな生活への渴望を表していると考えられている。流れ込んだ後、水は公会堂の脇に設置した二つの小さな排水管を通してゆっくりと流れ出し、水害を防ぐ。遠くから見ると、雨の中で二つの排水溝が竜のヒゲを描き出すように見える。これは古代の建築家たちの非常に印象的かつ情緒的なアイデアである。

#### ミア寺（ミア女王の祀）（写真7）

ドゥオンラム地域のミア女王にまつわる伝説は、李朝時代のイー・ラン（Ỡ Lan）皇后の話といくつかの点で類似している。民間伝承によると、ミア女王の本名はグエン・ティ・ゴック・ドンで（Nguyễn Thị Ngọc Dong）、現在のドンサン村（Đông Sàng）、ドゥオンラム郷に属するナム・グエン村（Nam Nguyễn）の出身である。皇后は天から授かった美貌と詩文の才能を賦与されていた。1630年、チン・タン王（Trịnh Tráng・鄭梈／1577-1657）<sup>(注8)</sup> が紅河を遡り、地方に官吏を配置しに行く途中でドゥオンラム地域を通った時、地元の人々が出迎えた中で、一人の女性だけが鎌を持ち続けて草を刈り、次のような歌を歌っていた。“Tay cầm bán nguyệt xênh xang ; nửa lo việc nước nửa toan

việc nhà”（訳：半月の鎌を揺らして、国のことも家のことも心配）（Vu Duy Men 2017）。

チン・タン王はその歌を聞いて、この田舎の娘が詩を読むとき、単なる詩ではなく、詩の中には国を治める国民への意志を込めていると感じた。そこで、チン・タン王は彼女を宮廷に招き、最も寵愛する皇后とした。皇后は1632年から1657年までチン・タン王の邸宅にいた。1632年に故郷を訪れた時、皇后は寺院が荒れ果てているのを見て、陳宮廷で得た金と、ドンサン、モンフ、カムティンなどの村の善男善女たちと一緒に、寺を再建するために資金を出した。これらの村はミア地区に属し、皇后の故郷であったため、地域の人々はその寺をミア寺と呼び、皇后を「ミア女王」と崇めた。皇后はまた、ミア市場やハタン港（Hà Tân）を設立し、紅河沿岸地域の貿易を活性化させた。民間伝承には、「Tiền Bà Chúa, lúa Đông Lâu（訳：女王のお金、ドンラウの米）」という歌があり、これは女王が米のように多くのお金を持っているだけでなく、女王が故郷のために使った慈善金を賞賛するという意味を持つ。地域の人々は女王の徳を称え、ミア寺に女王の像を設置し、専用の神殿も建てた。ミア女王は次第に地域の人々に尊敬され、聖母として崇められるようになった。その後、ミア寺とその神殿は時代の流れや歴史の中で変わることなく、ドゥオンラムの人々や遠方の訪問者にとっての聖なる場所として残っている。

約4世紀の歴史を持つミア寺は、ドアイ地方、特にベトナム全体で最大かつ最も美しい古代寺院の一つである。現在、寺院には大小287体の仏像が保存され、その中には6体の銅像、107体の木像、174体の土像が含まれる。これらの大小様々な仏像は、古代の職人たちの高度な芸術性、熟練の技術、才能を示している。ミア女王の祭壇も寺院内で重要な祭壇の一つである。訪れる旅行者は、ミア寺で神秘的で興味深い伝説に浸り、何千年もの文化遺産が息づくこの地で、心が軽く清らかになるのを感じられる。

このようにドゥオンラム村は多くの古い寺院、祠堂、そして家々があることで有名であり、これらはベトナムの文化と歴史を伝える重要な遺産と見なされている。また、ドゥオンラム村はベトナムのドンソン文化<sup>(注8)</sup>（Đông Sơn）が栄えた時代にその起源を持ち、紀元前の時代まで遡ることができる。この地域は、独特の地理的位置により、多様な文化的影響を受けながらも、独自の伝統を維持し発展させてきた。中世を通じて、村は北部ベトナムの農業と防衛の重要な要素を持つ。

#### 4. まとめにかえて -- ドゥオンラム村の伝統文化の保持と振興について

ドゥオンラム村は21の文化的遺跡を有し、そのうち10遺跡は国家または省の遺跡として分類されている。これらの遺跡には寺院、仏塔、墓が含まれ、ミア仏塔、フン・フン寺院、ゴ・クエン寺院、モンフー公会堂などが最近修復された。ドゥオンラム村では、有形の文化遺産だけでなく、無形の文化遺産や生態環境も保護し、維持することが重要視されている。この村には、伝統的な祭り、習慣、文学作品が保存され、ドゥオンラムの人々と土地に関する様々な時代の物語が伝えられている。美しい景観や伝説の物語と結びついた地域も多く、これらは村の魅力の一部となっている。新しい文化建築の建設は、歴史や国家英雄を称え、観光活動を促進する目的で行われており、伝統的および現代的な文化価値の調和、保存と発展の関係を保つことが求められている。ドゥオンラム村の価値の保存、復元、発展は、国家文化遺産の保護に貢献していると考えられる。

ドゥオンラム村の伝統文化の保存と振興に関する戦略は、観光開発を中心に据えたものである。村の管理委員会のリーダーによると、ドゥオンラム村は長い歴史的伝統を持つ村の一つであり、北部デルタ地域の典型的な有形および無形の文化価値を保存している。村の構造は、中心部の村が互いに隣接しており、村と村の間の境界は通常、村の道路、井戸、または寺院によって決まっている。これらは、ドゥオンラムの「生きた遺産」としての基本的な文化的価値を提供している。また、観光開発は、町の社会経済的発展における主要な目標として定義されており、ソントイ町は多くの文書を発行して、古い村の遺産の保存と価値の促進を効果的に実施するためのすべてのレベルと部門を指導し、指示している。観光に従事する家族向けの専門技能訓練や、観光製品の作り方に関する訓練コースが開設されている。また、ベトナム国家観光局、ハノイ市観光局、旅行会社と協力して、古い家を持つ家族にホームステイ観光サービスを展開するための訓練クラスを多数開設している。また、2014年には、ハノイ市が「ドゥオンラム村の古い村の遺産の価値の美化、保存、促進に関する投資プロジェクト」を開始した。これには、古い家の修理、古い村の遺産の価値の保存と促進など、15の内容への支援と投資が含まれている。この計画に基づき、ソントイ町は積極的に関連する部門に基盤設備の建設、遺跡の修復と改築を組織するよう指示し、これまでに13のプロジェクトが実施されている。さらに、ドゥオンラム村の観光のハイライトとして「黄金の作物の季節」がある。この期間中、村人たちはわらを使って特別な製品を織る。農業と観光の組み合わせは新しいものではないが、ドゥオンラム村にとっ

ては持続可能な産業を築き、地元の人々に作物以外の収入源を提供し、観光客にユニークな体験を提供するための大きな努力である。これらの要素は、理想的な観光製品を形成し、村の財政的安定に貢献し、ベトナムの独特の文化としての村を保存するのに役立っている。これらの取り組みは、ドゥオンラム村の伝統文化の保存と振興において重要な役割を果たしており、観光開発を通じて地元の人々に新たな収入源を提供し、村の文化遺産を保存し、促進している。

ドゥオンラム村の持続可能な観光の展望は、その自然環境と文化的な資源を大切にしつつ、観光を通じた経済的な発展を目指すことにある。このためには、観光の経営を地域コミュニティが主導することが重要である。地元住民によるホームステイや伝統的な食事の提供、手工芸品の販売など、地域の文化を生かした観光商品の開発が推奨されている。これにより、訪れる人々には豊かな文化体験を提供し、住民には直接的な収益をもたらすことができる。さらに、村の周辺環境への影響を最小限に抑えるため、自然保護区域の設定や環境教育プログラムの実施、観光客向けのエコツアーの提供など、環境に配慮した観光活動が奨励されている。これにより、地元の生態系と生物多様性を守るとともに、観光客に自然との調和の大切さを伝えることができる。また、地域内の交通手段やインフラを改善することで、観光客のアクセシビリティを高めつつ、環境への影響を考慮した持続可能な開発を目指す必要がある。例えば、公共交通機関の利用促進や、自転車レンタルサービスの提供により、観光客が村内を移動する際の二酸化炭素排出量を減らすことができる。加えて、持続可能な観光は地域経済を活性化させる可能性を持つが、それには地元の産品を利用したサービスの提供や、地域の若者や女性を観光業に積極的に参加させるような機会の創出が不可欠である。観光関連の教育プログラムやスキル開発ワークショップを通じて、地元住民に観光業界で成功するための知識と技術を提供することも、持続可能な観光において重要な要素である。最終的に、ドゥオンラム村が目指すべき持続可能な観光は、地域の文化と環境を守りながら、地域コミュニティの発展と繁栄に貢献することである。これは、地域の遺産を保護し、将来世代に引き継ぐための長期的なビジョンを持つことで実現可能となる。

(注)

(注1) ベトナム中部クアンナム省にある歴史的な町で、16世紀から17世紀にかけて、南シナ海で最も活発な国際商業港の一つとして栄えた。日本、中国、ポルトガル、オランダ、インドなど多くの国との貿

易で知られる。

(注2) ベトナム社会主義共和国政府が掲げた社会主義一党独裁の下での市場経済導入を中心とした経済再建政策のこと。

(注3) フン・ヴォン王朝(雄王/紀元7世紀～紀元2世紀)はベトナムの伝説的な王朝、ヴァン・ラン王朝でベトナム最初の国王であるとされている。フン・ヴォン王朝は、ベトナムの伝説や歴史の中で重要な役割を果たし、ベトナムの国家創設と統一に関連付けられている。しかしながら、フン・ヴォン王朝の実在については歴史的な証拠が限られており、伝説と歴史的事実が交錯している。ベトナムの伝説によれば、ヴァン・ラン国と呼ばれる地域を統一し、ヴァン・ランという名前の最初の王を戴いたのがフン・ヴォンであり、その後の王朝もヴァン・ラン王朝を継続させた。フン・ヴォンは神話や伝説の中で非常に英雄的な人物として描かれ、ベトナムの国家祖先とされている。

(注4) ベトナムの歴史における短命な王朝の一つで、968年から980年まで存在した。この王朝は、ベトナムの中部地域を統治し、ベトナムの統一国家の形成に重要な役割を果たした。ディン王朝の最も有名な君主は、ディン・ボウ・リン(Đinh Bộ Lĩnh)で、彼は王朝の創始者であり、初代皇帝であった。

(注5) ベトナムの歴史における重要な王朝の一つで、15世紀から18世紀にかけて存在した。この王朝は、ベトナムの東北部、(現在の北ベトナム)を中心に拡大し、ベトナムの独立と統一の時期において重要な役割を果たした。

(注6) ベトナムの重要な歴史的な地域であり、古代ベトナム人および古代ベトナム文明の発祥の地とされている。この地域は、ベトナム人の最初の国家が形成され、発展する過程を目撃した。歴史を通じて、ドアイ地方はベトナムの文化的アイデンティティと民族精神の形成に貢献してきた重要な地域の一つである。

(注7) 第四次北属後のベトナムに存在した封建王朝で、ある時期には黎朝と西山朝と同時に存在し、後に阮朝が成立する前の王朝である。後黎朝は黎利によって建てられた。

(注8) 紀元前1000年から紀元後100年にかけて、現在のベトナム北部に栄えた青銅器時代の文化である。この文化は、特に紅河周辺地域において、顕著な遺跡が発見されている。ドンソン文化は、高度な青銅鑄造技術と稲作農業を特徴とし、その遺物には美術的価値の高い青銅製のドラム(銅鼓)、武器、道具、装飾品が含まれている。ドンソン文化の青銅鼓は、「ドンソン鼓」とも呼ばれ、ベトナムを代表する考古学的な象徴の一つとされている。

## 参考文献

1. Đặng Khoa, Hoài Thu (2014) "Lịch Sử Việt Nam-Ngô Quyền Và Trận Chiến Trên

sông Bạch Đằng”, NXB Văn hóa thông tin

Dang Khoa, Hoai Thu (2014) 『ベトナム歴史－呉権と白藤江の戦い』 文化通信出版社

2. Ngô Sĩ Liên (2011) “Đại Việt sử ký toàn thư”, NXB Khoa học xã hội, tập 2

(Ngo Si Lien (2011) 『大越史記全書』 第2号, ベトナム社会科学出版社)

3. Phùng Văn Khai (2015) “*Phùng Vu'ong*”, NXB Hội Nhà văn

Phung Van Khai (2015) 『フン王』 文学会出版社

4. Vũ Duy Mèn (chủ biên) (2017) “*Lịch sử Việt Nam*”, NXB Khoa học Xã hội

(Vu Duy Men (監修) (2017) 『ベトナム歴史』 社会科学出版社)

なお、本文はグエンが主に執筆し、野上が日本語の修正と校閲を行なった。

本研究は、JSPS 科研費22H00688の助成を受けたものである。



写真1：ラテライトの壁



写真2：ハー・グエン・フエン氏の古家



写真3：グエン・ヴァン・フン氏の古家

写真4：ズオン・ラン氏の古家



写真5：モンフ集落の門



写真6：モンフ公会堂



写真7：ミア寺